公共施設の紹介

1 一宮市萩原町出張所・萩原公民館

昭和 23 年　中島郡萩原町役場・萩原公民館開館
昭和 30 年　一宮市との合併により一宮市萩原町出張所・萩原公民館と改称
昭和 53 年　市立萩原病院跡地に萩原町出張所・萩原公民館を移転
平成 31 年　萩原町出張所・萩原公民館を改築

【佐藤一英生誕 100 年記念碑】

この歌碑は、佐藤一英生誕 100 年の節目に建立され、一宮市博物館に展示されていました。そして 2019 年（平成 31 年）に改築された萩原公民館のロビーに移設されたものです。

尾張に生きた詩人の佐藤一英は、1899 年（明治 32 年）に萩原町高松の父佐藤広三郎、母はまの長男として生まれました。佐藤一英は「ヤマトタケルノミコト」を題材にした『大和し美し（やまとしうるわし）』の長編詩を詠み、これに感動した棟方志功が版画絵にしたことにより、広く知られるようになりました。

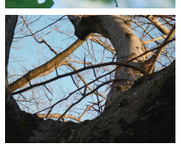
ヤマトタケルノミコトが東国遠征の時、海が荒れ狂い、行く道を阻まれてしまいました。この詩と版画は、妃である橘姫が生贄（いけにえ）となって海に身を捧げた場面を版画絵にしたものです。これによって海はすぐに静かになりました。

「大和し美し」の詩と板画

1 一宮市立萩原小学校

明治 40 年　中島郡萩原尋常小学校創立
明治 42 年　中島郡萩原尋常高等小学校と改称
昭和 16 年　中島郡萩原町立萩原小学校と改称
昭和 30 年　一宮市との合併により一宮市立萩原小学校と改称

【萩原小学校隣サイカチ】



萩原小学校の北の隣接緑地には、サイカチの樹があります。高さは 12mにもなる樹が 2 本あり、県絶滅危惧植物 2 類に指定され、一宮市指定文化財になっています。

サイカチの樹はマメ科の落葉樹で、秋にできるマメは大きく、昔は石鹸や薬用として利用されていました。幹から出る細い枝からは鋭い針が出ています。トゲがあることから、住宅の境界として、侵入を防ぐ役割も果たしていました。

2 一宮市立中島小学校

明治 40 年　中島郡中島尋常小学校創立
昭和 22 年　中島郡萩原町立中島小学校と改称
昭和 30 年　一宮市との合併により一宮市立中島小学校と改称

3 一宮市立萩原中学校

昭和 22 年　中島郡萩原町立萩原中学校創立
昭和 30 年　一宮市との合併により一宮市立萩原中学校と改称

4 一宮市立萩原保育園

昭和 29 年　中島郡萩原町立萩原保育園として開設
昭和 30 年　一宮市との合併により一宮市立萩原保育園となる
昭和 58 年　鉄筋コンクリート造２階建園舎に改築
平成 10 年　萬葉保育園廃園による園児受け入れ

5 一宮市立中島保育園

昭和 30 年　一宮市との合併により一宮市立中島保育園として開設
昭和 61 年　鉄筋コンクリート造２階建園舎に改築

6 一宮市立朝宮保育園

昭和 44 年　一宮市立萩原北保育園として開設
萩原保育園児を受入れ、保育を開始
昭和 48 年　一宮市立朝宮保育園と改称
平成 3 年　鉄筋コンクリート造２階建園舎に改築

7 一宮市立西御堂保育園

昭和 47 年　一宮市立西御堂保育園として開設
中島保育園より西御堂地区の園児を受入れ保育を開始
平成 6 年　鉄筋コンクリート造２階建園舎に改築

歴史街道

美濃路

東海道の熱田と中山道の垂井を結ぶ街道が美濃路です。その間に 7 つの宿場があり、一宮市内には起宿と萩原宿がありました。萩原宿は 7 つの宿場のなかで最も小さい宿場です。本陣と脇本陣があり、宿場ごとに人馬をかえて送る仕事を担う 2 つの問屋場がありました。

七里の渡しや鈴鹿の山道、中山道の木曽路の難所を避けるため、将軍の上洛、参勤交代、朝鮮通信使、琉球王の使節が通行する公用路として使われました。

1891 年（明治 24 年）の濃尾大震災により萩原宿の町並みは壊滅し、昭和初期には本陣と脇本陣の建物もすでになくなっていました。明治 15 年から、毎月二と七の日に萩原宿では市場（二七市）が開かれ、萩原･尾西･明地･祖父江などからの人々で賑わっていた写真が残されています。

巡見街道

江戸時代に徳川幕府は地方の民情視察と幕府の通達（お触れや年貢米の歩合など）を、諸藩の代官を通して庄屋や村人などに知らせるために、街道を設けて巡見使（幕府の役人）を派遣しました。

巡見使を迎えるにあたって、地方の代官・役人は、事細かに各村々の庄屋に細心の注意を払うための接待の心配りを指図しました。庄屋を中心に村人総出で、不要なものは撤去し、街道を塵一つなく清掃し、橋梁を修繕して準備をしました。

1788 年 6 月 4 日の巡見使一行の記録によりますと、前日に犬山で宿泊し、当日朝に出発し、曼荼羅寺で休憩し、旧国道 155 号に沿って一宮・苅安賀・富田方・朝宮を通過して萩原宿に泊まっています。当日は街道を封鎖して、接待役の村々の庄屋は正装の裃（かみしも）・帯刀で案内を務め、選ばれた村人が先払いや籠の付き添いを務めました。

名所・旧跡

1 萩原橋

徳川家康は天下を治めると、犬山から弥富にいたる木曽川左岸に大堤防（御囲井堤）を築造しました。このため、木曽川の支流であった日光川（旧萩原川）の水量と川幅は減少し、美濃路沿いの萩原川には萩原橋が架けられました。欄干（らんかん）が付けられた橋は当時では珍しく、江戸時代の名勝に選ばれていました。今はコンクリートの橋になっています。

橋が架けられたことによって近くにあった渡船場（天神の渡し）は、廃止されました。

現在の萩原橋

江戸時代の萩原橋

2 天神の渡し跡

16 世紀に美濃路の要衝として栄えた船渡し場「天神の渡し」跡と伝えられる萩原町の天神社に、萩原宮町町内会が 2003 年（平成 15 年）に記念碑を設置しました。

「天神の渡し」は現在の日光川が同神社のそばを流れていた頃、多くの旅人に利用されていました。

1586 年の大洪水で現在のような旧尾西市起寄りの流れに変わり、渡し場も起側に移りました。

天神の渡し跡の記念碑

3 宝光寺（濃尾大震災記念碑）

真言宗豊山派の寺院で、本尊は釈迦如来立像（一宮市博物館所蔵）です。奈良時代が平安時代に創建されました。創設当時は寺屋敷に 16 棟の伽藍坊舎が立ち並んで壮観であったとのことです。後に現在の稲荷神社の敷地に移転しています。

境内には、西国三十三箇所霊場、濃尾大震災記念碑、戦勝記念碑、脇本陣当主の森半兵衛の詠んだ歌碑があります。

濃尾大震災記念碑

4 萩原宿本陣跡

徳川幕府は大名に参勤交代を義務づけ、各地の大名は江戸と国許（くにもと）を 1 年交代で行き来することになりました。その結果、大名から一般庶民まで整備された街道を利用するようになりました。

宿場は宿泊したり、休憩する場所です。本陣の当主は、代々森権左衛門が務め、脇本陣は森半兵衛が務めました。本陣は、大名・勅使・公家などが利用する専用の旅館になっていました。脇本陣は次席の大名や幕府の役人が泊まりました。

5 萩原宿上問屋場跡

萩原宿には上問屋場と下問屋場の二つの問屋場がありました。問屋場の仕事は、一つは大名や幕府の役人の荷物を次の宿場まで、馬や人足を調達して運ぶことです。

もう一つは幕府公用の書状や品物を次の宿場に送り届けることでした。

6 馬頭観音

江戸時代の 1763 年に、萩原の馬持ち 12 名が発起人になって馬頭観音を建立しました。上問屋場と下問屋場の間に創設されました。

馬頭観音は石造りで、姿は馬を頭に載せた観音菩薩になっています。馬や畜類の守護を願って建立されました。

7 正瑞寺

真宗大谷派の寺院で、本尊は阿弥陀如来立像です。

創建時は天台宗であり、天神の渡しの近くにありました。この正瑞寺の門前、美濃路の曲がり角に高札所が置かれていました。お尋ね者などはこの高札のみでさえ恐れて、裏道を逃げるようにして通ったといわれています。

正瑞寺山門

8 高木一里塚

美濃路は全長 14 里余の街道で、13 の一里塚がありました。

高木の一里塚は美濃路の萩原宿を過ぎ、稲葉宿（稲沢市）に向かう高木にありました。現在では街道の松並木はなく、一里塚があった「しるし」として、1962 年（昭和 37 年）に記念碑が立てられました。

写真には、大正ごろの高木一里塚近辺の松並木とえのきの大木が写っています。街道筋の両側は、少し高くなり、当時の街道の面影が残っています。

大正時代の高木一里塚近辺

9 中嶋宮

垂仁（すいにん）天皇の命を受け、倭姫命（やまとひめのみこと）は天照大御神の威光を人々に広め、鎮座できる聖域を求めて、各地を巡行しました。

尾張国中嶋宮に 3 ヶ月間滞在して、その後伊勢に向かい、天照大御神は伊勢神宮に祀られました。

倭姫命が、すぐ近くの島崎から伊勢に船で向かわれた時、村人は白張りの大提灯を竹竿につけて送ったとの伝承が残っています。

中嶋宮拝殿

10 長隆寺

鎌倉時代に創建された長隆寺は、中島郡の豪族で代々中島蔵人を名のっていた中島氏から手厚く庇護されていました。お寺は真言宗で、現在の境内には十三重の石塔が建ち、右手に中島蔵人の小さい供養塔が建っています。

南北朝時代に入り、中島氏の末裔は南朝と北朝に分かれ、長隆寺は戦火に巻き込まれて、中島氏の城の落城と共に焼失しました。長隆寺の宝物、什器、古文書は火災で焼失しましたが、本尊阿弥陀如来像は戦火を免れ、現在一宮市博物館において保存展示されています。

長隆寺山門

木造阿弥陀如来座像
（もくぞうあみだにょらいざぞう）
と両脇侍像（りょうわきじぞう）

11 中嶋城址

藤原氏の権勢が強くなった平安時代に、中島一族は中島の地に拠点を移し、尾張や美濃の荘園管理を任され、農地の開墾につくしました。そして地方豪族として武力を蓄えました。

鎌倉時代から南北朝時代まで、尾張国中島郡中島村の蔵人として、また、中島氏の城主としてこの地域の所領を治めました。しかし、南朝方に味方して、戦火で城は落城しました。

妙興寺の創建には、中島蔵人の子孫で、滅宗宗興（めつじゅうそうこう）が、両親と乳母の恩に感謝し、1348 年（南北朝時代）に創建しました。

旧邸に用いた古瓦

12 中島廃寺

この付近は「石塚」と呼ばれ、古瓦が散乱し、かっては古寺が存在したと伝えられていた土地です。1964 年（昭和 39 年）の中島廃寺址の発掘により、軒丸瓦や鬼瓦が発見され、奈良時代に建てられた堂の基壇も発見されました。

この発掘調査を契機に、中島の字地名の丸宮と、丸宮神明社がまさに尾張国中嶋宮を示しているのではないかと推論され、丸宮神明社を含め 6 社をまとめて八劔社と総称していたのを、中嶋宮と改名しました。

中島廃寺　軒丸瓦

中島廃寺の発掘

13 願林寺

昔は笠松町長池にあって、七堂伽藍を構えた天台宗のお寺でありました。しかし、木曽川の大洪水によって六昇社と共に萩原町朝宮に流されてしまいました。

1466 年の応仁の乱以降、騒乱や一揆が勃発し、社会不安が各地に広まっていました。この時期に蓮如上人から感化を受け天台宗から浄土真宗に改宗しました。

願林寺山門

14 忠魂碑

萩原小学校の北隣に建てられています。天皇への忠誠心を抱いて、日清戦争・日露戦争を戦い、戦死した兵士の英霊を祀るために、1935 年（昭和 10 年）に建設され、2 年後に竣工しました。

2000 年（平成 12 年）に太平洋戦争の戦死者を加え、現在では英霊 326 柱が祀られています。

萩原町戦没者奉賛会、萩原町遺族会により、毎年 10 月上旬に追悼式が行われています。

15 旧萩原郵便局

1871 年（明治 4 年）に郵便事業が開始されましたが、地方にまでは普及しませんでした。しかし、地方の有力者や名士など多くの民間人の協力により全国に普及していきました。

萩原でも 1901 年（明治 34 年）に、民間の名士による協力で、萩原郵便局が発足しました。その後、和文の電信サービスと保険の事務を、さらに電話の交換業務も行なうようになりました。

旧萩原郵便局（郵便取扱所）

16 郷土資料館（舟木一夫歌碑）

郷土資料館は萩原駅北の踏切側に設置されています。郷土史に関心が深い有志が資金を出し合って、この資料館を開設しました。

資料館前には、舟木一夫の歌碑があります。「高校三年生」で大ヒットし、橋幸夫、西郷輝彦と共に「御三家」と呼ばれました。今も現役で活躍し、全国各地で座長公演をしています。また、尾張に生きた詩人佐藤一英の貴重な資料も収蔵されています。

17 樫の木文化資料館

郷土の詩人佐藤一英は、郷土から弥生時代の遺跡が発掘され、萩原の南木戸遺跡から多数の木製品が発見されたことにより、カシの木を日本文明の起源とする世界観『樫の木文化論』を唱えました。

樫の木文化資料館には、農具や民具が展示されています。

18 19 萬葉公園

戸苅山一帯はハギが自生し、青松が群生する自然豊かな場所でした。萩原町の名前の由来はハギの名所であったことによると言われています。

萩原町高松出身の詩人佐藤一英は万葉集の歌のなかに、「高松の野辺や野山」を詠んだ 6 首の歌があることに気づき、ふるさとのこの地にあたると解釈しましたが、論争が巻き起こりました。

最終的には、高松は万葉集の歌とは関係しないが、ハギは万葉集に多く詠われていることからハギが群生して咲き誇るこの地を保護し、万葉のいにしえを偲ぶ歌碑を立てて市民の憩いの公園として、1957 年（昭和 32 年）に開園しました。

現在、公園内にはソメイヨシノやカワヅザクラが植樹され、ホタル園ではヘイケボタルが観賞できます。

昭和 32 年当時

20 山中遺跡（萩原遺跡群）

1955 年（昭和 30 年）、萩原町富田方の元県立尾張病院敷地内での工事中に、溝状遺構の底から、壺（つぼ）、器台、高杯などが群集した状態で発見されました。広口壺型土器は、弥生時代後期の鉄分を含んだ鮮やかな朱色の土器で、尾張地方に特有なもので、パレススタイル土器（宮殿式土器）と命名されました。前面に彩色された美しい仕上げの蓋付小型壺形土器も出土しました。

21 南木戸遺跡（萩原遺跡群）

1962 年（昭和 37 年）の名神高速道路の建設工事によって、土器や石器が掘り出されたために、工事を一時中断して調査が進められました。

名神高速道路と名鉄尾西線が交差する付近の東約 100m～ 120mの河田方高架橋付近の場所です。

酒杯型の土器や壺型土器、住居に使用したような木片、農具に使用したと見られる木片が多く出土しています。

尾張の詩人佐藤一英が「樫の木文化論」を唱えた根拠になっています。

農具等の木片

22 苗代遺跡（萩原遺跡群）

1961 年（昭和 36 年）から翌年にかけて林野の区画整理事業が行われ、用水路工事の際に土器片と、木器片が出土しました。

このため 1962 年 (昭和 37 年) に専門家の調査が実施されました。林野と河田方の間の用水路を中心にして、南北約 300m、東西 120mの範囲にわたって、弥生時代の土器や瓶、木の道具、植物の種子が出土しました。

木の道具

23 二子遺跡（萩原遺跡群）

1925 年（大正 14 年）の埋め立て工事の際に、多数の土器や石器が出土し、発見の契機になりました。専門家の現地調査によって、1929 年（昭和 4 年）に弥生式遺跡として注目されました。

再度 1949 年（昭和 24 年）に、畑地を掘り進め、弥生時代の土器や住居址が発見されました。さらに管玉も発見されています。表土近くでは古墳時代の須恵器がありました。

1974 年（昭和 49 年）の一宮西高校舎建設の基礎工事の時には、鉄の矢じりや土器が発見されました。土器は模様の付いた壺、脚付壺（あしつきつぼ）が発見されました。この石碑は、弥生時代の遺跡があったことを記したものです。

一宮西高校内の石碑

24 河田遺跡（萩原遺跡群）

1960 年（昭和 35 年）の萩原中学校の校舎建設の基礎工事中に、二棟の校舎の下から、弥生時代前期から後期にかけての土器と古墳時代の須恵器の土器が発見されました。また石の矢じり・斧、さらに鉄の矢じりも発見されました。床面に木炭が散布した住居址、炉址も発見されています。

石の斧